

科目名	健康科学特殊研究	担当者	タネガシマ 種ケ嶋 ヒサシ 尚志	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	---------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座では、健康・スポーツに関する心理学的諸課題について具体的な解決方法を修得することにより、以下の能力を身に付けることを目的とする。</p> <p>I. 経験や学修から得られた豊かな知識と教養に基づいて、自己の高い倫理観を倫理的な課題に適切に適用することができる。</p> <p>II. 仮説に基づく課題や問題を提示し、客観的な情報に基づく論理的批判的な考察を通じて、課題に対し、具体的かつ、論理的整合的な見解を示すとともに、その限界を認識することができる。</p> <p>III. 想像力と独自性をもって問題解決の方法と手順を立案し、独力あるいは他者と協働して問題を解決することができる。</p> <p>IV. 集団の活動において、より良い成果を上げるために、他者と協働し、作業を行うとともに、指導者として他者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>健康・スポーツにおける問題を発見し心理学的解決策を身につけることや、得られた情報を基に論理的思考や批判的思考を修得できることを目標とする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>①科目内で扱った事象を心理学的視点から説明することができる。(知識・想起・態度)</p> <p>②科目内で扱った内容をベースに自分自身を表現することができる。(知識・解釈)</p> <p>③健康・スポーツの課題を心理学的視点から捉え、課題解決の方法を論理的に記述することができる。(知識・技能)</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。(SBOs①) ・manaba folio の掲示板を利用して、受講者同士の協働学習を行う(課題図書等に関する受講者同士の質疑応答・意見交換、レポートの推敲のためのピア・レスポンス等)(SBOs②③) ・図書館、インターネットを利用した参考文献を調査や、フィールドワークからレポートを作成する。(SBOs①②③) <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>与えられた課題に沿って教材を丹念に読み、参考文献も参照しながら、レポート作成を行う(自習/自主研究/レポート作成)。</p> <p>レポート課題1つにつき、完成までに以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>学修項目 課題図書内に示されているキーワードを文献等を用いて調べる</p> <p>学修時間 1つのレポート作成にあたり、30時間以上(教材学修20時間/レポート1本、レポート執筆10時間/レポート1本)、manaba folio への提出・再提出のやりとりに15時間以上(ディスカッション15時間/レポート1本)を目安とする。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題1草稿は7月30日に提出し、レポート課題2草稿は8月30日に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前にメール等で相談すること。</p> <p>両レポート課題の最終稿は9月9日に提出する。</p> <p>後期：教材2のレポート課題1草稿は11月30日に提出し、レポート課題2草稿は12月25日に提出する。取り上げる題材については、草稿としてまとめる前に、メール等で相談すること。</p> <p>両レポート課題の最終稿は年明け1月5日に提出する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	<p>課題に関係する重要な論点をおさえているか。</p> <p>結論が明確であるか。</p> <p>結論にいたるまでの理由が必要かつ十分であるか。</p> <p>引用および参照について適切に開示並びに表現しているか。</p>
	観察記録	40%	<p>活発に質問を行うなど積極的に取り組んだか。</p> <p>レポートの提出期限を厳守したか。</p> <p>明瞭かつ論理的な説明を心がけているか。</p>
履修者への要望	<p>教材の内容だけを取り入れるのではなく、受講者自身の考え方も取り入れ、論理的でオリジナルなレポートになるよう心がけて下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 松田岩男 杉原隆 編著 教材名： 『新版運動心理学入門』（大修館書店，1987年） ISBN-4469261254 2376円+税
	運動心理学に関しての内容がよくまとめられているテキスト。理論的には古く感じられるかもしれないが、現代にも通用する理解しておくべき理論が多く掲載されている良書である。
参考図書	日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008年） ISBN-978-4-469-06217-5 5700円+税
履修上のポイント	運動に関する心理学についてどのように扱われているのか、教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題 1	教材の1章～5章までを読み、各章の要約を行い、それに対する自分のコメント意見を述べよ。 留意点： 各章の要約は平均800字を目安とし、そのコメントを400字程度で行うこと。
レポート課題 2	教材の6章～10章までを読み、各章の要約を行い、それに対する自分のコメント意見を述べよ。 （第10章のみ箇条書きにて要約） 留意点： 各章の要約は平均800字を目安とし、そのコメントを400字程度で行うこと。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 竹中晃二編著 教材名： 『運動と健康の心理学』（朝倉書店，2012年） ISBN- 425452689X 2400円+税
	身体活動・運動の実践を必要とする人々（子どもから中高年者を含めた大人/健常者から疾病患者まで）の行動変容を達成するために必要な心理学・行動科学を理論的実践的に解説されたテキスト
参考図書	竹中晃二編著 健康スポーツの心理学（大修館書店，1998年） ISBN: 4469263885 日本スポーツ心理学会編 『スポーツ心理学事典』（大修館書店，2008年） ISBN-978-4-469-06217-5 5700円+税
履修上のポイント	健康心理的課題や運動心理的課題について、教材の内容を整理し以下のレポート課題を考える。
レポート課題 1	教材の1章～7章までを読み、各章の要約を行い、それに対する自分のコメント意見を述べよ。 留意点： 各章の要約は平均800字を目安とし、そのコメントを400字程度で行うこと。
レポート課題 2	教材の8章～11章までを読み、各章の要約を行い、それに対する自分のコメント意見を述べよ。 留意点： 各章の要約は平均800字を目安とし、そのコメントを400字程度で行うこと。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	運動心理学の意義の理解
第 3 回	基本教材の学修；「運動と生理・認知心理学」について
第 4 回	基本教材の学修；「運動と動機づけ」について
第 5 回	基本教材の学修；「運動の発達」について
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修；「運動学習と運動指導」について
第 10 回	基本教材の学修；「運動とパーソナリティ」について
第 11 回	基本教材の学修；「運動の社会心理/研究法」について
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証

基本教材 2

第 1 回	教材の学修と、本科目の課題の理解
第 2 回	基本教材の学修；「生活習慣病の予防と対処」
第 3 回	基本教材の学修；「運動実践・促進に伴う心理社会的効果と理論」について
第 4 回	基本教材の学修；「運動行動変容プログラムの開発」について
第 5 回	基本教材の学修；「個別コンサルテーション」について
第 6 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	基本教材の学修；「子ども、青少年、女性への介入」について
第 10 回	基本教材の学修；「職域・産業界への介入」について
第 11 回	基本教材の学修；「高齢者・地域への介入」について
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：最終稿の作成
第 15 回	レポート課題 1・2 を通じた、本課題に関する全体的な理解の検証